



渋谷健司さんに聞く

東京財団政策研究所研究主幹

# オミクロン急拡大 現状と対策は

新型コロナウイルス・オミクロン変異株の感染急拡大の現状と対策について、東京財団政策研究所研究主幹で、福島県相馬市の新型コロナウイルスワクチン接種メディカルセンター長も務める渋谷健司さんに聞きました。

(中祖寅一)

日本の現状で一番の問題は、ワクチン接種を完了した高齢者や初期に接種した医療従事者の抗体が減少していることです。こういう人たちへのワクチン3回目の接種(チースター)を急ぐことです。

南アフリカやイギリスのデータでは、2回のワクチンではオミクロンへの感染防止効果は35

# 「早期」要請無視 突然「8カ月」に 3回目接種 後手に

%とかなり低いが、3回目を打つと75%までは上がります。またチースターをやれば重症予防効果は90%まで上がります。こゝで、チースターは非常に重要な点ですが、現状では人口比2%程度で全く遅れています。

私がサポートしている福島県の相馬市と南相馬市では、昨年10月に、市民の方々の協力を得て抗体価の変化をみる血清の検査をしました。するとワクチン2回目接種後、3カ月で抗体価が減少を始めていることがわかりました。

その当時、オミクロン感染は世界でもまだ始まっていませんでしたが、高齢者は抗体の落ちるスピードも速い。初期に接種した医療従事者も含めチースターを急いで、立教大・南相馬市長が昨年10月12日と首相官邸に要請しましたが、11月に突然「原則8カ月」となってしまいました。オミクロンの感染拡大が始まって急に「6カ月」に戻しましたが、結局、高齢者へのチースターは遅れ、全体も後手に回ったのです。

科学に基づく国民の安全確保よりも、手続き論を重視した厚労省の護送船団方式の結果です。早くから準備をした相馬市では今月中に65歳以上のチースターをなんとか終えることができそうです。